PART４　四段と下二段の活用がある動詞

★活用の種類が「四段」と「下二段」の二種類ある動詞→「訳し方の違い」がある。

｛四段＝そのまま訳す
　下二段＝四段の意味＋「　　　」

（例）

「入る」（い）
　四段＝中にはいる
　下二段＝（中にはいらせる→）中に入れる

「立つ」
　四段＝
　下二段＝

「慰む」
　四段＝心が晴れる
　下二段＝（心を晴れさせる→）慰める

※特に大事な「二種類ある動詞」

「被(かづ)く」

四段＝かぶる・褒美をいただく

下二段＝かぶせる・褒美を与える

「頼む」

四段＝頼みにする・あてにする

下二段＝頼みに思わせる・あてにさせる

問六　「女房の装束一襲(かさね)かづけ給ひけり。」の傍線部の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　お与えになった　　イ　奪いなさった　　ウ　お作りになった

エ　奉納なさった　　オ　保管なさった

問七　「頼めて」の意味として最も適当と思われるものを、次の中から選べ。

ア　頼りにして　　イ　期待させておいて　　ウ　なんとかして　　エ　ひたすらお願いして

第4講　PART4　確認問題

①　傍線部の活用の種類として最も適当なものを、次の中から選べ。

「箱にいれ給ひて、ものの枝につけて、…」

ア　四段活用　　イ　上一段活用　　ウ　下一段活用　　エ　下二段活用

②　傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「御物の怪などの、これも、人の御心乱らんとて、…」

ア　乱れるだろうといって　　イ　乱そうとして

ウ　乱さないといって　　エ　乱れまいとして

③　「黒いものをかぶって」という意味になるように、□に入る言葉を次の中から選べ。

「黒きものを□て」

ア　かづか　　イ　かづき　　ウ　かづく　　エ　かづけ

④　「頼めたまふめり」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　頼みに思わせなさるようである
イ　頼みとしていらっしゃるようである
ウ　お便りをくださるようである
エ　信頼できる人なのであろう

⑤　傍線部の活用の種類と活用形として最も適当なものを、次の中から選べ。

「東向きに椅子立てて」

ア　四段活用・已然形　　　イ　四段活用・命令形
ウ　下二段活用・未然形　　エ　下二段活用・連用形

第４講　ＰＡＲＴ４　解答

問六　ア

問七　イ

第4講　PART4　確認問題　解答

〔解説〕

① 「いれ」はラ行下二段活用動詞「入る」の連用形。意味は「(中に) 入れる」。四段活用の「入る」の連用形は「入り」。

② 「乱ら」はラ行四段活用動詞「乱る」の未然形。意味は「乱れるようにする」「乱す」。

③ 「～をかぶる」という意味の「かづく (被く)」は四段活用なので、「～て」に続く連用形の形は「かづき」となる。

④ 「頼め」はマ行下二段活用動詞「頼む」の連用形で、「頼みに思わせる」という意味。

⑤ 下に「～て」とあることから「立て」の活用は連用形。したがって下二段活用である。

〔解答〕

① エ　② イ　③ イ　④ ア　⑤ エ